

## 令和7年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

**【日 時】** 令和7年11月25日（火）10時00分～11時30分  
**【場 所】** 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室  
**【出 席 委 員】** 中村委員、弓削委員、伊藤委員、西田委員、松尾委員、田中委員、江崎委員、江口委員、江寄委員、柿川委員、堺（裕）委員  
**【欠 席 委 員】** 堀（婦）委員・久保委員  
**【行政関係者】** 松枝市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、浦川生涯学習課地域学習担当課長、佐藤人権・同和・男女共同参画課長、小野世界遺産・文化財室室長  
原武生涯学習課社会教育主事、藤木生涯学習課社会教育振興担当職員  
**【欠席行政関係者】** 大倉野市民協働部長、西村スポーツ推進室長

### ◆あいさつ

堺議長

### ◆議題

#### 1 令和7年度南筑後地区社会教育委員会交流会について

当日配布資料「社会教育の会議」の資料1「令和7年度南筑後地区社会教育委員会交流会」を基に、研修に参加された中村委員、伊藤委員、西田委員、田中委員より報告。

以下の意見・質問が出た。

議 長	南筑後地区社会教育委員会交流会について、4名の委員が参加された。まずは4名の委員から、それぞれ報告をお願いしたい。
委 員	会議の中では、ゲノム情報についての講義や、「アクティビティ OK？ アウト？」という人権について考える交流があった。 大川市での社会教育行政と社会教育委員の実践報告では、互いに協働活動を進めるにあたり「人権確保と育成」「人材発掘と活動内容の広がり」「郷土愛のためのふるさと学習」という3視点で充実が図られていた。特に『郷土愛のためのふるさと学習』では、地域行事の持続化、行政と地域の絆づくりを具体的にどのように進めたのかが参考になった。 私は以前、筑後市で地域学校協働活動を立ち上げ、学校の中心となって地域と関わっていたが、学校と地域がWin-Winの関係になるにはどう活動していくべきか話し合った経験を思い出した。地域の住民が学校を訪れて防災や地域の歴史を教える機会の中で、『未来の私たちの町はこんな風になって欲しい、だからこんな行動をしよう！』と考える学習において、小学6年生が「町を明るくするためにハロウィンの仮装で地域のゴミ拾いをしよう」と企画を出した。この取組は、地元の短大の学生らがメイクや衣装制作に携わるなど、地域のコミュニティ同士が協力して実施され、既に3年間続いている。この先も子ども達の自由な発想を取り入れた新しい伝統が出来るのを

	<p>期待している。</p> <p>また、他市町村の人々と本市の社会教育委員との交流の中で、P T Aや自主的に社会教育委員になった人、まち協の委員など、立場の異なる者同士で対話することの大切さを学んだ。「社会教育委員として何をしたら良いのか」という課題はグループ内で全員が一致しており、それが取り組んでいる事や考えている事を、集まって話す場が必要であるとの結論に至った。</p> <p>誰もが発言し、地域やこれからしてみたい事、実現すべき事など、様々に対話することで組織が活性化し、市民の力になり、ひいては地域全体の発展に繋がると感じた。</p>
委 員	<p>私は、八女地区社会教育委員連絡協議会会長の西坂ヨシエ氏の「会議において皆が必ず発言する仕組みづくり」、また、大川市教育委員会生涯学習課社会教育主事の松延聰氏による「それが個で考えるのではなく、集まって考える事が重要」との発言が印象に残った。集まって対話する場を設け、各々の意見を発言する仕組み作りが必要だと感じた。</p> <p>他市町村の人々との交流を通じ、自身の知識・行動不足、さらには自分が、社会教育委員の役割がどういうものであるか把握出来ていない点を痛感した。そこで交流会の後、現在の自分に出来る事として、日頃のP T A活動や地域活動を通じて感じていることを意見として集約するため、市内の小・中学校に向けて、アンケートを実施した。</p>
委 員	<p>私は会議の中で、柳川市、大川市、大木町の様々な立場の人の話を聞くことができた。私は、大牟田市のために何ができるかを学び直すため、昨年の社会教育委員の一般公募枠に応募した。今回の交流会は2回目の参加となるが、以前は分からなかった事も、この度の研修やこれまでの実務を通じ、理解を深めることができたように思う。この経験を次の世代に伝えるためにも、まずは自分自身が学び、経験を積み重ねていきたいと考えている。</p>
委 員	<p>私の所属する地域コミュニティでは、各校区の会長と月に1、2回交流する機会がある。子ども会の活動にも参加させてもらっている。大川市の社会教育の実例は、自分の社会教育委員としての活動や、本市の取組にも大いに取り入れられると思った。他市町村の人々との交流や今回のような講演を参考にすることで、自分の実践に役立つと感じた。</p>
委 員	<p>先の参加報告の中にあったが、P T A宛のアンケート調査は、非常に有意義であったと思う。また、地域協働活動を推進するには、学校側の受け身の体制を変える必要があると思う。教員の忙しさや異動の多さが連携の障害となり、地域と家庭が繋がりを保っているのに対して、学校の活動は地域へ充分に入り込んでいないと日頃から感じている。</p>
委 員	<p>学校関係者として、学校から地域へ、困っている事の集約を依頼するなど働きかけを行ってきた。しかし地域や保護者の間には、先程にもあった通り、教員などを含めた『学校』に頼みづらい」という認識が生じている。その中</p>

	で学校と地域の繋ぎを担う解決策として、最も重要なのは「子ども」であると思う。地域に貢献出来る発想を学校内で育て、地域住民が「その発想が良いからやってみたい！」と思える連携を築く事が、地域にも学校にも良い結果を齎すと考える。地域学校協働活動が年々増える中、互いが繋がり合うのが大事である。白川小学校ではジュニア民生委員が立ち上がっており、地域の民生委員が学校のサポートを行う取組を進めている。
委 員	子どもだけを育てるのではなく、「子どもと共に大人も成長していく」ことが重要である。また子ども達には、小・中・高と成長する過程で、それまで自分達が地域や学校の活動にどう携わってきたかを振り返り、その先いかにその活動と繋がり続けられるかを考えることが出来る人材になって欲しい。小学校から中学校へ上がった児童に、ボランティアや地域の活動に参加してもらうためには、大人がどう子ども達を中心に据え、活躍の場に引き出す事が出来るかが重要になっていくと思う。本市の未来を担う子ども達をどう育てるか、アイデアを出し合いつつ、人との繋がりを広げていきたい。
議 長	「子ども達と作る繋がり」というワードが出たが、それについての意見等は無いか。
委 員	<p>「繋がり」については、特に『地域学校協働活動（コミュニティスクール）』として、地域と学校が一体となって取り組むことが重要である。その理由として、公民館の衰退が全国的に進み、国が公民館には教育活動がないと判断した事により、支援を行っていない実態が挙げられる。これまで「公民館」が担ってきた地域協働活動を、国や県が予算を配分する形で「学校」へ担わせる方向へ転換している。その中で大事になるのは、子どもと一緒に大人も育てていく事である。</p> <p>学校はG Tと呼ばれる「ゲストティーチャー制度」を導入しているが、学校と繋がりの薄い地域住民の不満が高まっている。この不安を解消するために大牟田にはコーディネーターが存在し、また、各学校には 地域学校活動推進委員が配置され、地域と学校の橋渡し役を担っている。地域と学校が協働するには、相互の埋め合わせが欠かせないものである。地域と学校の関係性を築く事は子ども達の学びにも繋がり、それによって市全体が発展していくと考える。</p> <p>先日、大正小学校で実施された総合防災訓練に、日頃から花植えなどのボランティアに携わっている本市の中学生 23名を派遣したところ、大活躍であった。生徒からは「またやりたい」、地域住民からは「また呼びたい」との声が寄せられ、こうした活動が繰り返される事で『学校と地域の繋がり』が深まっていくのだと考える事が出来た。</p>
議 長	地域と学校の連携についての話が挙がったが、考えや意見等があれば述べられたい。
委 員	先の総合防災訓練については、実践に先立ち10回を超える会議を重ね、

	本当に上手く行くのか懸念を抱いていた。しかし本番では、地域が一体となるのを目の当たりにした。訓練は、地域の住民が学校へ避難するという想定での訓練であったが、新聞にも取り上げられ、様々な意味において貴重な機会を生み出す事が出来たと思う。
委 員	冒頭に述べられた、交流会での「アクティビティ OK? アウト?」の内容について詳しく教えて欲しい。
委 員	例えば日本食を食べた際に『日本人で良かった』と発言することは差別にならないか、『女性らしさ』や髪を切ることに対する偏見、そして『女性ならではの繊細さ』といった考え方方が、人権の観点から見て良いのか悪いのかなど、班で話し合い交流を行った。
議 長	答えを1つに絞るのではなく、様々な価値観が存在し、その違いを互いに分かり合おうとする意識の共有を目的とするものか。
委 員	色々な考え方がある、また考えを持った人が居ると知る事や、互いに意見を分かり合うことは重要である。判断する立場によって考え方は変わるものである。対話の重要性を改めて認識する事が出来た。
委 員	<p>玉川小学校では、毎週水曜日に令和4年度から「玉川小学校放課後塾」を実施している。13時30分から14時までを学習の時間、14時から15時までを地域学習の時間としている。地域学習の時間では、前期を「地域の歴史と自然学習」、中期を「施設学習」、後期を「地域の伝統学習」として年間25回程度実施している。また11月13日には、カレーライスの調理やキャンプファイヤーなど、児童23人、保護者や民生委員等の大人を含め約60人が参加してデイキャンプを行った。なおこの放課後塾には参加規則はなく、基本として、教員の指導は入らない。校長先生も見に来るだけで、子ども達を中心とした活動が行われている。</p> <p>また子ども達は、森、川、海へ直接出向いて現場で学んでいる。干潟で泥だらけになりながら生き物のことを学ぶ等、外へ出る事で見る目が養われる。社会教育委員が果たすべき役割は、このような地域と学校の「橋渡し」であると考える。学校、地域、家庭などそれぞれに問題はある。その問題について、話し合いながら結び付き、繋がりを形成していくことが大事である。</p>
議 長	実際に足を運んで現場で学ぶ体験の場がある事で、子ども達の学習への視点が形成され、お互いが繋がり合い、心が豊かに育って行くのではないかと考える。
委 員	小学校での学びについて、子ども達が中学校へ進学するとそれまでの繋がりが切れ易いものであるが、学習の流れをどう作れば良いのか。
委 員	まずは、現在学んでいる、学ぼうとする子ども達を大切にする事が必要である。そして、「教える人、教えられる側」としての学習ではなく「学び合う」という、学びの質を変えて行く。こうして小・中・高の学びが繋がる事で、教える側の教員が驚き喜ぶほど、子ども達は大きく成長する。このような繩

	り返しを作ることが大事である。
委 員	そのためにはリーダーとなる学生がいると大変助かる。
委 員	教育とは、学ぶことだと考える。何かを体験する、何かに取り組む事自体が、学びに繋がっている。大人には、例えば飲み会のように、人と交流する機会がある。人と人が繋がるきっかけや関係性づくりになるという点において、これもまた1つの学びになるとを考えている。
委 員	頻繁に報道されているいじめ問題について、なぜ起こってしまうのか等、学校現場ではいじめに関してどのように捉えているのか。
委 員	子ども達は、様々な場所でいじめや辛い経験を抱えて生きている。他人や自分の置かれた環境との関係性に悩む子どもも多い。学校の立場としては、地域や家庭が学校と連携出来ていると、それらの問題の解決が早まると考える。さらに子ども達を温かく見守る地域の協力があれば、解決はより一層早まると考える。本日の会議の内容にも係るがまさに、地域学校協働活動が必要なのである。 例えば、私の学校ではPTAが、毎週水曜日の放課後の「子どもたちの居場所」を立ち上げた。PTAには子ども達全員が加入しており、いつでも来て遊べる居場所となっている。不登校の子ども達が集まりやすい場として、他の学年の子どもや保護者、地域住民と触れ合う機会も生まれている。いじめ問題の解決には、このような人と人との触れ合える居場所が重要だと考える。
委 員	先の報告内容にあったゲノム情報とは何か、具体的に教えて欲しい。
委 員	医学の進歩により予測可能となった、将来癌に罹患する可能性等の遺伝情報を根拠に、「この人と結婚すれば子どもまで癌になるかもしれない」と判断して結婚を避ける等、個人の遺伝子ゲノム情報を用いた新しい差別、偏見のことである。
議 長	技術の進歩によって、こうした新しい差別や偏見が生まれる中で、人と人との自由に対話出来る土壤作りが更に重要になってくる。

## 2 令和7年度 第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会について

当日配付資料「令和7年度 第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会 開催要項(第2次案内)」を基に、大会役員を務めた堺議長から開催概要のみを説明。大会に参加した西田委員、江崎委員の参加報告については第3回の社会教育委員の会議での発表を予定。(意見・質問なし)

## 3 第78回はたちのつどいについて(報告)

当日配付資料「第78回はたちの集い 実施要項」を基に、浦川生涯学習地域学習担当課長より開催概要の説明と案内。(意見・質問なし)

## 4 その他

- ・各PTA活動や地域活動についての意見聴取について

当日配布資料「各PTA会長への社会教育に関する意見集約(令和7年1月13日)」に基づき、伊藤委員より報告。

以下の意見・質問が出た。

委 員	放課後の居場所作りと学習支援について、校区内に誰もが集まる施設を設置して欲しいという意見が出ている。具体的には、児童館のような開放的な居場所の設置、また、地域行事での利用や災害時における避難所として、小中学校の体育館へのエアコン設置の要望が多く寄せられている。  学童の通学環境の整備については、銀水地域で、道路の白線が見えづらい箇所が在ると指摘があった。さらに銀水小学校の前の速度規制は現在時速20キロだが、時速30キロへ見直される可能性もあるとの事であった。
議 長	小・中学校へのアンケート調査、集約に深く感謝する。

#### ◆委員等より報告・案内

- ・海洋プラごみについて

当日配布資料「海洋プラごみについて考えよう」に基づき、江口委員よりイベントの案内。

以下の意見・質問が出た。

委 員	ガールスカウト福岡県第7団が主催する『海洋プラスチックごみ対策』について。海を汚す原因となるプラスチックの現状を踏まえて、どう減らしていくかを共に考え、プラスチックの削減に取り組むプラスチックタナーになって欲しい。12月6日（土）13時から開催される。ぜひご参加いただきたい。
議 長	このイベントに参加申込は必要か。
委 員	申込は必要ない。
議 長	承知した。

・徳川生涯学習課長より……令和7年12月20日(土)にイオンモール大牟田で開催される「未来を紡ぐファッションショー～OMUTAコードバトン2025～」の周知依頼。

・佐藤人権・同和・男女共同参画課長より……令和7年12月21日(日)に大牟田文化会館で開催される「第40回人権フェスティバル」の周知依頼。

⇒次回会議 令和8年2月予定